

みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です



盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>

盲導犬や白杖で
一人ひとりに合った
歩行訓練を無償で行っています



神奈川訓練センターの白杖歩行訓練の様子。ほか仙台訓練センターが実施したバス乗車訓練の様子(左下写真)、富士ハーネスでは行政とも連携して歩行指導の充実を図ります(右下写真)

TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

犬の「生活の質」向上を目指して 富士ハーネス 医療エリアをリニューアル

盲 導犬の生涯にわたるトータルケアを目的に、2006年富士山の麓に開設した「盲導犬の里 富士ハーネス」。今年10月で15周年を迎えます。盲導犬訓練施設としても多くの機能を担う富士ハーネスで3月、医療エリアを中心に改修工事を行いました。



病気や怪我、加齢などで医療ケアを必

→新設されたケアハウスは、手術室など設備が整った医療室と直結。従来より迅速で適切な医療処置が可能です

要とする犬のために「ケアハウス」を新設。また、母犬と子犬が過ごす分娩親子棟には、断熱効果が高いとされるペアガラスを導入して温度と湿度の管理を徹底したほか、出産前に適度な運動ができるよう母犬専用フリーラン場を拡大。病気や事故を防ぎ、健康な状態で出産を迎えられるよう整備しました。



↑分娩親子棟の床はコンクリート製で水洗いができます。母犬はより衛生的な環境で出産と育児ができるようになりました

引退犬棟のカーテンや壁面塗装なども一新。これからも犬が快適にゆったりと過ごせる安心安全な環境づくりを目指します。

消毒スプレーやハンドソープの寄付 ユーザーが安心して外出する後押しに

協 会が行った「コロナ禍での困りごと聞き取り調査」から、盲導犬ユーザーが不安を抱きながら外出している実態が明らかになったことを前号で紹介しました。メディアでもこのような実態が報道されています。報道を見て視覚に障害がある方の役に立ちたいと、花王株式会社より感染予防のための衛生用品の寄付の申し出がありました。

届いた段ボールの中には、携帯用消毒スプレー、シートやハンドソープなどと一緒に、商品一つひとつの説明と使い方が分かる音声CDが同封されていました。点字付きの手紙には「みなさまの安心・安全の一助となれば」とコメントも

添えられていました。4月、協会はこれを全てのユーザーに配布。「CDの説明内容が分かりやすかった」「物に触れることが多く、手や指の消毒用品は日々使うものなのでとても助かる」「一人暮らしで一度に買い物できる量も限られるため、大切に使います」など多くの喜びの声が寄せられました。「商品などを触ることに不安がある」「消毒液の場所が分からない」など困惑しながら外出していたユーザー。温かな思いがユーザーの心を晴れやかにしてくれました。

日本盲導犬協会の歩み 2021.4.1 ~ 6.30

- 4月14日 第1回常任理事会
- 5月12日 第2回常任理事会
- 5月28日 第1回理事会
- 6月17日 第3回常任理事会
- 6月24日 第1回評議員会

↓5月13日 そごう広島の新入社員向けに研修を実施。視覚障害者役と店員役でペアを組み、手引きの方法を学びました



←3月22日 新潟県消防防災航空隊が実施した、盲導犬ユーザーをヘリで吊り上げて救助する訓練に協力。全国で4例目の取り組みです



←4月16日 富士ハーネスでトヨタカローラ静岡株式会社からの寄付金贈呈式を開催。協会への支援は6年目となります



→4月13日 江戸時代に創設された藩校・弘道館（茨城県水戸市）から盲導犬受け入れについて相談があり、校内の量の上を実際に歩いて確かめました



北里メディカルドッグ 2代目モカ引退を迎えて

協 会では、北里大学メディカルセンターの動物介在療法 (AAT=Animal Assisted Therapy) に2012年から協力しています。AATとは、医療者の指示の下、患者の状態に合わせて動物の力を借りて行う治療方法の一つです。モカは協会の2代目メディカルドッグとして2016年から約4年半にわたって活動し、10歳を迎えた今年3月に引退しました。

モカは盲導犬を早期に引退後、人との作業を楽しめる素質を認められてメディカルドッグに転身。性格は明るく、初対面の人にも積極的に挨拶をするなど、とにかく人が大好きです。寝たきりで手を動かせる範囲が限られた患者に対し、手のところへピンポイントで顔を寄せるのが得意だったり、おもちゃを使った遊びを患者と楽しんでリハ

ビリに役買うこともありましたが、さらには、笑うことの少なかった子供がモカに会うと笑顔満開に。医師や看護師、病院スタッフのみならずからも愛される存在でした。

AATの活動は3代目にバトンタッチします。期待に応えられるよう、協会は引き続きサポートしていきます。

→患者に寄り添うモカ。引退後はボランティアの家庭でのんびり余生を過ごします



←今年3月のモカ（写真右）の卒業式には北里メディカルセンターのスタッフが集まってくれました。3代目の犬たちもモカに最後の挨拶

国際盲導犬の日 世界の盲導犬事情から

4 月最終水曜日は国際盲導犬の日。1989年に国際盲導犬学校連盟 (現国際盲導犬連盟=IGDF) が発足した日です。今年4月28日で、IGDFはこの日、世界の盲導犬事情についてプレスリリースを配信しました。

それによると、2020年の世界の盲導犬実働頭数は21,002頭 (日本は861頭で世界の約4%)。2019年の22,227頭から約1,000頭減ったことについて、IGDFは、コロナの影響で

各団体が訓練やサービスを十分に提供できなかったのではないかと考察しています。また「盲導犬の受け入れ拒否」が海外でも発生しているとも。

IGDFには、協会のほかイギリスやアメリカをはじめとした34の国と地域、99の育成団体が加盟しています。国内にとどまらず、世界の各団体とも連携して問題解決の糸口を探っていきます。

●各センター活動報告(4月~6月)

(2021年6月30日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	3回	2回	2回
	バビーレクチャー	14回	5回	6回
	バビーウォーキング修了式	2回	1回	2回
	ユーザーフォローアップ	44回	54回	20回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	1回	1回	3回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー	3回		
	短期リハビリテーション	0回	1回(2人)	0回
普及推進活動	その他リハビリテーション	96回(75人)	178回(109人)	35回(30人)
	見学会・団体見学	1回	0回	13回
その他(雑誌など)	講演・実演・募金活動・受け入れセミナー	27回	13回	8回
	各種オンラインセミナー	5回		

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	34回
新聞	53回
WEB	204回
その他(雑誌など)	7回

主な放送・掲載

4月1日 点字毎日 行政職員向けオンラインセミナー 富士宮市や島根県など行政と協会の連携事例を紹介
4月7日-6月18日 毎日新聞他2紙TV3局ラジオ1局WEB10件 協会ユーザーから聖火ランナー選出 意気込みや感想を紹介
4月9日-6月5日 読売新聞他7紙TV2局ラジオ3局WEB10件 協会が実施した盲導犬ユーザーへの聞き取り調査から「コロナ禍での困りごと」について
4月17日 静岡新聞他1紙TV5局ラジオ1局WEB2件 トヨタカローラ静岡株式会社 寄付金贈呈式
4月23日 静岡新聞他TV1局WEB1件 富士宮市と富士ハーネスが連携して「視覚障害者に情報つなぐ相談会」実施
4月28日 毎日小学生新聞他1紙TV1局ラジオ1局WEB2件 国際盲導犬の日で盲導犬特集
5月8日 テレビ朝日「ANNスーパーJチャンネル」視覚障害者が感じているコロナの影響について協会がユーザー取材
5月21日-6月16日 福祉新聞他3紙TV2局WEB75件 「盲導犬ユーザー受け入れ拒否の実態報告」リリース 協会やユーザー取材
6月1日 BS朝日「みらい遺産」多和田理事を取材 訓練士学校の魅力を紹介

※協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

神奈川訓練センターで視覚障害リハビリテーション拡充

誰ひとり取り残さない 社会を目指して

見えない見えにくい人に必要な情報と リハビリテーションを届ける



↑視覚リハの様子。電子レンジ用のシリコン調理容器や熱くならない皿、黒いまな板を使って調理も楽に。レンジはボイスレコーダーに録音します。そのほか音声パソコン訓練など、その方に必要なリハビリテーション内容を一緒に考えていきます

協会は近年、視覚障害リハビリテーション（以下、視覚リハ）の充実に一段と力を入れていきます。視覚リハとは、見えにくくなった方の相談に応じたり、新たな技術をも身につけるサポートを行うことです。きめ細かな情報提供のほか、盲導犬歩行訓練や白杖での歩行訓練、音声パソコンなどIT機器訓練、調理や裁縫ほか日常生活訓練なども視覚リハの一環です。このようなサービスが、現状で十分に提供されているとは言えません。協会では、仙台訓練センター、富士ハーネスを中心に高い専門性をもって視覚リハを実施してきました。その実績を生かし、良質な視覚リハをより多くの人へ提供するため、今、協会にできることは何なのか。4月から新たに白杖歩行訓練に注力する神奈川訓練センターの現場から、課題を考えていきます。

もう一度歩きたかった 「気持ちの良い緑道」 での白杖訓練

6月初旬、神奈川訓練センターから車で10分足らずの場所で、白杖歩行訓練を実施しました。訓練を受けるのは地域に暮らす神田信さん、55歳。協会では訓練を受けるのは3回目です。既に最寄り駅への訓練を終え、この日の課題は、隣駅まで30分弱の

道のりを確認すること。いくつか経路があるうち、見えていた頃は、公園内を抜ける石畳のこの緑道を歩いて隣駅まで通っていました。

自然豊かなこの道は、湾曲したり複雑に分岐しているため歩くのが難しく、しばらくは足が遠のいていたそうです。でも好きな道を歩ければと、強い思いを胸に訓練に臨みました。緑が生い茂るこの道は「やっぱり気持ちいい」と語ります。

神田さんは進行性の「網膜色素変性症」で夜盲があり、見えにくくなった早い段階から白杖をかばんに忍ばせていましたが、人に見られることに抵抗を感じ、長いこと使わずにいました。しかし、次第に進む視力低下。3年ほど前には白杖なしでは歩けなくなっていました。今回全盲に近い見え方となり、新たに歩行訓練を希望したのです。

もっと気軽に すぐに訓練が受けられる システムを

訓練では、歩行訓練士が神田さんと一緒に公園内の道を歩きながら、

「土と石畳の境目をたどる」「路面の状態が変わったら分かれ道の合図」など小さな手がかりを確認していきました。神田さんが納得するまで何度でも歩きます。道を間違えた時のことも想定して、軌道修正のやり方も練習しました。

神田さんの場合、白杖を持った当初から歩行訓練を受けることができましたが、どこに相談すればいいかわからない、長期間待たされるといった人が多数いると指摘します。「歩行訓練は、見え方や環境変化に合わせて、気軽に、定期的に受けられるものであって欲しい」と力を込めます。

医療と福祉の狭間で取り残される人に対して、早い段階で必要な情報を届けることが重要です。それを担うのが視覚リハの相談業務です。協会では、見えない、見えにくい人につながることで、適切な視覚リハを提供できるよう体制を強化していきます。

道から外れないように白杖で土と石畳の境目を確認しながら進みます。道の分岐点では路面がアスファルトに変わるので、わずかな感触を逃さないよう何度も確認。「次は会社の最寄り駅や会社内での歩行確認もやってみたい」と意欲的です。



AC ジャパン支援キャンペーン広告

「いってきます!をすべての人へ」 新たにスタート

~全ての人が出かける幸せを分かち合えるように



昨年に続き、第6弾となるACジャパンの支援キャンペーンが7月1日から始まりました。テレビやラジオ、新聞、駅や電車の中吊りなどいろいろな媒体で発信されます。今年のテーマは「いってきます!をすべての人へ」。映像広告では、それぞれの家のドアが開いて次々に人が出かけていく中、一つのドアから盲導犬がひょっこり顔を出します。「行ってきまーす」と盲導犬とユーザーのお出かけです。「帰りに牛乳お願い!」「はーい」楽しそうに歩く盲導犬と「外へ出かけられるのは、誰にとっても素晴らしいこと」「それは、目の見えない人、見えにくい人にとっても」のナレーションで締めくくられます。

コロナ禍で「外に出かけられない日常」を体験した今、出かけられないことがどれほど不自由で不安なことか、私たちは思い知らされています。しかし、コロナ禍よりずっと前から、そうした思いを抱えてきた人たちがいることをご存知でしょうか。

今回の広告では、見えない、見え

にくい状態になって出かけられずにいる人たちへ向けて「盲導犬や白杖を使って外へ出かけませんか」と呼びかけています。出かける楽しさ、それぞれが望んでいる人生を取り戻してもらいたい、そんな願いが込められています。見えない、見えにくい人にこのメッセージが届いて、つながることができたなら、それがスタートです。私たち協会は、その人の望む「いってきます」を実現するために、方法を一緒に考えていくこと

ができます。

昨年度のACジャパン広告では、「盲導犬の誤解に吠える」として盲導犬への誤った認識が盲導犬ユーザーを傷つけている現状を訴えました。今回はさらに一歩進めて、社会が抱く視覚障害者へのイメージにも一石を投じています。

視覚障害になったら「一人では何もできなくなる」、多くの人がそう考えているのではないのでしょうか。

実際にはそんなことはありません。必要な情報が得られて適切なサポートを受けられることができれば、一人で外へ出かけたり、帰りに牛乳を買ってきたり、自立した生活を送ることができるのに、そのことが当事者にも社会にもあまり知られていません。

こうした現状を広く世に伝え、視覚障害があっても「いってきます!」と言える社会になるよう、みなさんと一緒に行動していきたいと考えています。



公益社団法人 ACジャパンは全国の1,000を超える民間の企業と団体がついて、広告を通して社会にメッセージを送り続ける非営利組織です。
公益社団法人 ACジャパン 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
◆広告のご意見・ご要望はホームページへ http://www.ad-c.or.jp

気づきを、動きへ。 AC JAPAN





↑恒例のボランティア夏祭りの様子 (2016年)。富士ハーネス施設内に犬たちも集いにぎやかに

ボランティアLIFE 盲導犬の一生を支える 愛情のバトンリレーに 参加しませんか

およそ3,000人のボランティアが協会事業を支える

協会の活動は、ボランティアの存在なくして語ることはできません。ミッション達成へ向けて共に歩む仲間であるボランティアは、主に犬の飼育、犬舎のサポート、社会理解促進に関わり、その活動を支えています。2021年4月末現在で活動しているボランティアは実に2,742人にも上ります。

- 盲導犬の親犬である繁殖犬の数は雄19頭、雌31頭。繁殖犬飼育ボランティアの家族が飼育しています。出産を控えた母犬の健康管理に注意を配り、交配のタイミングに合わせて訓練センターへ出向くなど急な事態にも対応します。
- 生後2か月から1歳まで、やんちゃ盛りの子犬を育てるパピーウォーカーは、現在40家族が活動中、ほか93家族が登録。盲導犬を育てるという意識をもってパピーを育てています。定期的にレクチャーに参加して、兄弟犬を飼育する家族と一緒に課題克服に取り組んでいます。2頭以上の子犬を育てるケースが50%を超え、中には10頭以上を育てたベテランもいます。
- 引退犬飼育ボランティアは212家族が活動しています。引退後の盲導犬162頭、繁殖犬引退犬56頭がそれぞれの家庭で過ごしています。高齢の犬たちをケアし、最期までみ

とります。
●生まれた子犬の中で盲導犬になるのはおよそ3～4割。それ以外の盲導犬にならなかった犬の多くは、キャリアチェンジ犬飼育ボランティアのお宅に迎えられて家庭犬となります。他のボランティアとは違い、協会から犬を譲渡しますので、責任をもって最期まで飼育することや犬との相性も重要になります。

そのほか、犬舎の掃除や洗濯、犬の手入れや散歩、餌やりや排泄などを手伝うケネルボランティアが83人、盲導犬の理解促進、PR活動や街頭募金活動に参加するイベントボランティアが439人、全国の小中学校、商業施設などで盲導犬や視覚障害について理解を広めるための実演を行うデモンストレーターが33人、活動をしています。

ボランティア委員会がつなぐ人の輪

こうしたボランティア活動が広がっていく中、有志が集まり2003年にはボランティア委員会を結成、親睦を図るようになりました。協会との意見交換、連携にも重要な役割を果たしています。月1回、協会職員も参加してボランティア委員会が開かれ、活発な意見交換が行われています。ボランティアとの信頼関係なくして、盲導犬育成事業は成り立ちません。

春、秋の街頭募金活動、年度末は犬に関する勉強会、夏には毎年恒例、富士ハーネスでの1泊2日ボランティア夏祭りを開催。富士山麓の広大な敷地いっぱいにはテントが張られ、協会職員も混じって屋外バーベキューで思い思いに楽しめます。多くのボランティア活動を通じて、新たな出会いが生まれています。

※ボランティア委員会では、一緒に活動する仲間を募集中です！詳細は神奈川訓練センターへお問い合わせください。

※一部募集を停止しているボランティアもあります。詳細は協会ホームページをご確認ください。



コロナ禍での「受け入れ拒否」と 解決に向けた協会の取り組み ～「共生社会」を目指して

協会では2005年2月から、盲導犬同伴での受け入れ拒否にあったユーザーからの要請に応じ、施設との間に入って問題解決に向けた対応を行っています。20年度の「受け入れ拒否対応事例」から拒否の原因が「教育不足」にあることが浮き彫りになってきました。オンラインを活用した取り組みなど、協会ではさまざまな活動を行っています。

コロナ禍でも変わらない受け入れ拒否

2020年度の協会対応件数は34件。63件(18年度)→90件(19年度)→34件(20年度)と減少しました。しかし、「サポートが必要な場所には行かないようにしている」という声もあり、外出を断念せざるを得ないユーザーの実態が背景にあることを忘れてはいけません。

拒否が起きた場所は飲食店47%、次いで医療機関24%、小売店9%、交通機関6%、宿泊施設や娯楽施設などが1%。18年度から合算しても、飲食店47%、医療機関17%、小売店7%で飲食店が圧倒的です。

拒否の原因は「受け入れの義務を従業員に徹底できていなかった」など教育不足が50%、「受け入れ義務を知らなかった」35%、「受け入れについて誤解をしていた」12%で、受け

入れ拒否原因の半数が教育不足であることが明らかになりました。企業として受け入れ規定を設けていた場合でも、現場でユーザー対応に当たる責任者や従業員への教育が不足していたことにより、入店や乗車拒否に至った事例もありました。

行政へ働きかけて「教育不足」解消へ

協会では、飲食店・医療機関・商業施設・宿泊事業者の各事業者別に「オンライン盲導犬受け入れ・接客セミナー」を開いています。飲食店向けセミナーは月に1回、定期開催中です。より広く参加してもらえるよう、各都道府県の福祉窓口を通して各地の同業組合に告知したところ、宿泊事業者向けセミナーには遠方の沖縄県からも多数の参加がありました。

一方、仙台訓練センターでは、飲食店の責任者が集まる「食品衛生講習会」で盲導犬受け入れの説明を行っています。県や市に呼びかけて19年より開始、20年度は宮城県内と山形市で24回、999人を対象に実施しました。今後も行政と連携を取りながら、教育不足の解消を目指します。

ワクチン接種を適切に受けられるように

コロナ禍において、盲導犬の受け入れはもちろんのこと、視覚に障害

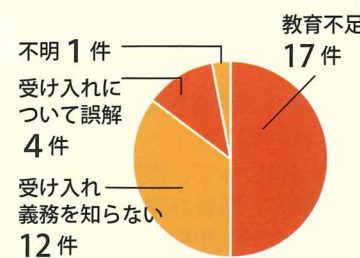


↑医療機関を訪ね、盲導犬の待機方法について検証を行っています(2019年9月撮影)

がある方もスムーズにワクチン接種を受けられるような配慮が必要です。協会では各地の医師会に協力を仰ぎ、医療機関向けに作成された補助犬の受け入れに関するリーフレットなどを医療現場へ1万部を目標に送付しています。また、宮城県には「合理的配慮」の実現に協力する旨を伝えて4市町村からの問い合わせに対応したほか、仙台市へは接種会場における予診票の読み上げなど配慮すべき事項を記した資料を作成し、送付しました。

協会は、このようにコロナ禍にあっても多様な施策を編み出すことで適切な受け入れ対応を促進し、「共生社会」の実現を目指していきます。

受け入れ拒否の原因



※2020年度「受け入れ拒否対応事例」の詳細は協会ホームページにも掲載しています。

2020年度 事業報告・決算報告

盲導犬育成事業

①視覚障害者に対する歩行指導及び盲導犬貸与

29頭の盲導犬を育成し、32ユニットの視覚障害者に対する歩行指導、盲導犬貸与を実施。内訳は神奈川訓練センター16頭18ユニット、仙台訓練センター8頭8ユニット、富士ハーネス2頭2ユニット、島根あさひ訓練センター3頭4ユニット。全体で代替が26ユニット、新規が6ユニット

②盲導犬の認定

当協会以外の認定はなし

③犬の飼育及び訓練

- ・訓練した犬は152頭。そのうち新入所した犬は96頭
- ・新たに繁殖犬として雄2頭、雌6頭を登録。21年3月末現在で雄19頭、雌34頭、計53頭の繁殖犬を保有。凍結精液は年度内に作成した338本を含め6,101本を保有

- ・出産頭数50頭
- ・パピーウォーカー(PW)に委託した頭数は60頭。しつけ指導(パピーレクチャー)を191回実施。コロナ感染対策として動画やオンラインも活用

- ・島根あさひ盲導犬パピープロジェクトは4頭実施
- ・35頭37ユニットの盲導犬が引退あるいはユニット解消
- ・犬舎及び医療管理

④盲導犬使用者(ユーザー)に対するフォローアップ(FU)

- ・コロナ感染対策として出発式、FU実施を延期
- ・定期FUは189回、問題解決、健康相談などその他のFUは416回実施
- ・6歳時コミュニケーション会をオンラインで5回実施

⑤盲導犬訓練技術・育成技術の向上

- ・訓練士のスキルマップ評価が定着
- ・伸縮性バーハンドル型ハーネスを量産、ユーザーに配布

⑥各種研修会への参加

- ・第6回盲導犬育成ジャパンセミナー(オンライン)に参加、3題の口頭発表

⑦施設整備

- ・富士ハーネス医療棟、親子棟の大規模修繕実施
- ・神奈川訓練センター犬舎改築準備

盲導犬歩行指導員等育成事業

- ・盲導犬訓練士1人認定。准訓練士5人認定
- ・訓練士学校3人が1年目課程を修了

調査研究事業

- ①人工繁殖法の技術定着
- ②盲導犬の合格率向上、健康改善のため麻布大学などの研究への協力

ユーザーサポート事業

- ①盲導犬歩行についての理解促進 体験歩行会13回開催。盲導犬説明会8回開催。オンラインのセミナーも開催

- ②ユーザーコミュニケーション コロナ禍での困りごと等に関する調査と定期聞き取り調査を実施。盲導犬6歳時コミュニケーション会44人参加

- ③視覚障害者在宅生活指導(白杖歩行訓練等) 481人に対し744コマの訓練を実施

- ④リハビリテーション相談 盲導犬希望者など206人に対し235回の相談対応

- ⑤短期リハビリテーション訓練など
- ・仙台訓練センターでコロナ感染対策のため人数を限定して2回実施、6人参加

- ・出張型及び中学生向け開催はなし
- ・仙台訓練センターで小学6年生限定「盲導犬ユーザー1日体験会」を実施し2家族が参加

- ⑥各種講習会 視覚障害者やその支援者向けの講習会開催。行政職員向けのオンラインセミナー開催

啓発事業

- ①各センター見学会など
- ・一般見学会324回、7,475人、団体見学会52回、1,532人

- ②センター外での活動
- ・街頭啓発活動33回、デパートやスーパーでの「盲導犬ふれあい広場」17回、「全国盲導犬普及キャンペーン」2回

- ・盲導犬、補助犬法などの実演・講演47回、盲導犬小中学校キャラバン185校を訪問
- ・盲導犬受け入れセミナー(オンラインを含む)56回実施

- ③広報活動
- ・会報誌「盲導犬くらぶ」を4回発行、合計191,340部

2020年度決算 (単位:円)

科目	2020年度	前年度
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産等運用益	13,000,484	652,179
受取会費	262,197,816	257,208,055
事業収益	37,204,600	35,287,381
受取補助金等	16,396,011	22,148,000
受取寄付金	553,865,030	667,066,776
雑収益	776,722	851,905
指定正味財産からの振替額	115,157,741	27,567,878
経常収益計	998,598,404	1,010,782,174
(2) 経常費用		
盲導犬育成事業費	401,154,630	415,507,441
盲導犬歩行指導員等育成事業費	15,272,012	11,648,637
調査研究事業費	23,985,410	23,860,300
ユーザーサポート事業費	45,881,472	51,978,096
普及啓発事業費	173,953,756	180,864,923
関係団体協力事業費	621,132	2,791,772
訓練センター管理費	137,343,710	118,653,640
事業共通費(減価償却費等)	61,184,483	62,115,748
公益目的事業費計	859,396,605	867,420,557
法人管理費	131,416,461	121,994,332
経常費用計	990,813,066	989,414,889
当期経常増減額	7,785,338	21,367,285
2. 経常外増減の部		
当期経常外増減額	△7,712,747	1,064,893
当期一般正味財産増減額	72,591	22,432,178
一般正味財産期首残高	3,084,887,605	3,062,455,427
一般正味財産期末残高	3,084,960,196	3,084,887,605
II 指定正味財産増減の部		
基本財産等運用益	27,352	2,048,712
受取寄付金	572,745,626	752,421,236
特定資産評価損益	3,542,717	△3,953,705
一般正味財産への振替額	△115,157,741	△27,567,878
当期指定正味財産増減額	461,157,954	722,948,365
指定正味財産期首残高	4,166,028,800	3,443,080,435
指定正味財産期末残高	4,627,186,754	4,166,028,800
III 正味財産期末残高	7,712,146,950	7,250,916,405

- ・電子メディアの運営。ホームページ訪問者560,571人
- ・新聞などメディアへの掲載、放送1,057回

関係団体協力事業

- ・日本盲導犬協会ユーザーの会、ボランティア委員会との協力
- ・全国盲導犬施設連合会、全日本盲導犬使用者の会、アジア・ガイドドッグ・ブリーディング・ネットワーク、日本盲人福祉委員会などへの協力
- ・国際盲導犬連盟(IGDF)への協力、諸外国の盲導犬施設と交流

その他事業

- ①未来構想(井上ビジョン)
- ・withコロナにふさわしい盲導犬コミュニティハウス(仮称)の構想
- ・東京大学盲導犬歩行学分野研究室より活動報告書提出
- ②人材育成として職員研究発表大会実施、同行援護従事者研修に職員1人派遣、資格取得
- ③震災支援として、被災視覚障害者支援研修会で職員が講演。日本盲人福祉委員会の九州豪雨被災地支援に資金援助
- ④協会ICTインフラの整備
- ・データ通信の高速化とセキュリティ強化

2021~2030年度 中長期計画

コロナ禍を乗り越え、持続可能な盲導犬の貸与と盲導犬ユーザーが過ごしやすい社会を目指して

SDGs達成期限の2030年までを3つの期に区切り事業促進と社会環境の整備を進めていきます

2021~2023年 withコロナ期 2023~2025年 代替過密期 2025~2030年 充実期

コロナ禍でも事業を止めない中期計画

使命を果たす代替計画

社会の負託にこたえる待機期間ゼロ計画

事業促進整備

待機期間なく盲導犬を貸与できる持続的な体制づくり

- 中長期共同訓練計画
- 訓練士養成システムの最新化
- 従業員支援プログラムの導入
- 訓練環境整備
- 井上ビジョンの推進
- 繁殖犬確保のための国際戦略
- 事業継続計画の更新

社会環境整備

視覚障害者・盲導犬ユーザーが過ごしやすい社会環境を目指して

- 障害の社会モデルの理解推進
- 視覚障害リハビリテーション事業の拡大
- ヒューマン・アニマル・ボンド(HAB)※2の推進
- 教育分野での一層の理解促進

※1 代替:盲導犬引退後、ユーザーに新たな犬を貸与すること
 ※2 HAB:人と動物の相互作用の中に生まれてくる「人と動物との絆」のこと

2020年度はコロナ禍での厳しい運営となりました。その中でオンラインを活用した活動も始まり、新たな展開が生まれています。激動する社会情勢を踏まえ、協会では新たな運営指針となる中長期計画の策定を検討しています。

コロナを吹き飛ばせ SNSの活用にも力を入れていきます

協会公式YouTubeチャンネル

盲導犬受け入れに関するみなさんの疑問や不安に答える「【かいけつ!】盲導犬の〇〇がキニナル?」を公開中です。衛生管理や排泄の方法などをユーザーでもある押野まゆ職員が実演。今後もさまざまなテーマを取り上げます。



協会公式Twitter

「国際盲導犬の日」「ほじょ犬の日」に質問募集やアンケート投票を実施したところ、Twitterを通してたくさんの方から思いが届きました。今後もSNS(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)ならではの「つながり」を活用して盲導犬や視覚障害について知ってもらえる機会を作ります。

協会ホームページ

「ニュース&イベント」にて協会が関わるテレビ番組の放送予定などメディア情報を随時更新中。イベントやセミナーの専用ページも新設予定です。

秋葉薬品は日本盲導犬協会を応援しています。
 秋葉薬品株式会社 tel.03-5577-5645
 akibayakuhin.com/fucoidan/

無理なく、続けられる
 ナチュラリープラス®
 The Global Healthcare Company
 私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。
 株式会社 ナチュラリープラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
 TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL http://www.naturally-plus.com

スタートライン Start Line

皆様のご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2021年6月までの共同訓練卒業生

- 各ユーザーの紹介項目
- ユーザー名・所在地(盲導犬歴)
- 盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
- ①共同訓練期間
- ②パピーウォーカー名
- 犬種記号
- LR: ラブラドル・レトリバー
- GR: ゴールデン・レトリバー

神奈川訓練センター

初めての盲導犬ライフ 心を通わせたあの日から

3月に初めての共同訓練を終えたばかりの内田さんは、初めてのパートナー、ウェイと息もぴったり毎日の散歩を楽しんでいます。散歩コースは「床屋さん、歯医者さんなど目的地ごとに13種類もできました」と内田さん。朝6時に起きてコースを決めるのが日課です。

そんな内田さんも、最初は盲導犬にどう接して良いのか分からず戸惑ったと言います。ウェイとの距離をぐっと縮めたのは、内田さんが考えた「フェイシャルマッサージ」でした。「緊張しているのか、ウェイの表情が硬い」と訓練士に言われたのをきっかけに、ウェイの顔周りを優しくなでるように。毎日繰り返すうちにウェイの緊張がほぐれたのでしょうか、夜には内田さんの近くで眠るようになります。

ある日、いつものように名前を呼ぶと、ウェイが鼻でつつんと内田

さんの手に触れてくれました。「ここにいるよ」という合図です。「目の見えない自分のことをウェイが理解してくれたと感じました」と、ウェイと初めて心を通わせた瞬間を振り返ります。

それからの内田さんは持ち前のポジティブさで共同訓練を楽しみに変えていきます。たとえば、当初は「ウェイは本当に障害物を教えてくれているのか」と不安で、ハーネスを強く握ってしまっていた内田さん。白杖で障害物に触れながら歩くのに慣れていたので、でも、訓練士の助言で力を抜いてみると、ハーネスの揺れや傾きからウェイの動きをより感じ取れるように。そうやって新しいことを一つひとつ、ウェイと一緒に楽しめるようになりました。

かつての内田さんは「視覚障害は自分の弱さ」と感じ、目が見えにくくなくても周囲に気づかれないようにしていました。ホームで転落しかけてからは白杖歩行へ移行、4年後の55歳で視力がさらに悪化し、勤務先を休職することに。30年以上も会社員だった内田さんには会社に戻る以外の生活は想像ができず、復職のため新たに音声パソコン技術を身に付けようと日本視覚障害者職能開発センターへ通い始めます。

内田 明利さん
東京都町田市 (1頭目)
ウェイ (♀) GR
①2021.2.22 ~ 3.19
②内田 晴美さん



↑「散歩中、ふっと梅の花の匂いがしてね。白杖歩行の頃はただ歩いて精いっぱい。でも、ウェイが隣にいてくれる今は「花や風や鳥の声を季節を感じながら歩けることがとてもうれしい」

これが大きな転機でした。センターに通ううち、視覚に障害のある方たちと出会い、新しい世界を知って「会社で働く以外の人生があるのではないか」と考えるように。家族の後押しもあって会社を退職し、盲導犬と生きることを決めました。

今後は、あん摩や鍼灸の勉強、盲学校にも通ってみたいと語る内田さん。ウェイとの時間を有意義に過ごせるよう、コロナ禍でも新しいことに挑戦したいと胸を躍らせています。



⇒内田さんが考えた「フェイシャルマッサージ」はウェイとの大切な時間。今も毎日、鼻筋から後頭部、耳の後ろなどウェイの顔周りを優しくもみほぐします



オペラと一緒に毎朝近所の喫茶店に出かけるのが日課です。モーニングを頂いて常連客とおしゃべりするのが楽しみ。年齢もあって共同訓練に耐えられるか、プレッシャーが大きかったけれど、無事終わられたときは本当にうれしくて……。一人で歩けるってやっぱり楽しい！オペラは、かわいいねと言われるとお腹を出して「なでて〜」とおねだり、その仕草が本当にかわいい！オペラがきてくれて幸せです。

白井 公子さん
東京都北区 (4頭目)
オペラ (♀) LR
①2021.3.8 ~ 3.26
②佐藤 昭平さん



宮口 覚さん
富山市 (4頭目)
キズナ (♀) LR
①2021.4.5 ~ 4.16
②稲原 勝治さん

街中に出るのに路面電車に乗ります。道路中央の乗り場へ行くのに横断歩道を渡ります。渡る前まで来るとキズナはしっかりと信号のボタンの位置を教えてください。乗車後、席に座っている間はいつも平気な顔して足元で寝ています。マラソンが好きでしたが、腰を痛めてからはキズナとの散歩がリハビリ替わりで、四季を感じられるこの時間が大好きに。キズナ先生、これからも一緒に四季を探しにいきましょう。

金子 正次郎さん
埼玉県東松山市 (5頭目)
ギンガ (♂) LR
①2021.4.12 ~ 4.23
②赤岡 明さん



病気を患い盲導犬との歩行を中断していました。回復後、体力に合う犬を希望し「都合で早くに引退した犬は？」とギンちゃんを紹介されました。ゆっくり丁寧に歩いてくれて、僕の体力でも十分にコントロールできます。先日、仲間やボランティアたちと森林公園にハイキングへ。久しぶりに大自然の中を歩きました。ギンちゃんは人の股をすり抜けるお得意の遊びなどをして大人気でした。徐々にいろいろなイベントに参加したいです。

物覚えがよいネーラ、バス停を探す時も得意の「チェアア」で教えてくれて助かります。毎日近所の散歩コースを歩くほか、タクシーで遠方のスーパーまで足をのばしたり、空いている時間で電車に乗ったり、ネーラといろんな場面を経験するようにしています。家の中ではお気に入りの窓辺でひなたぼっこをするのが大好き。近所の臨海公園へネーラと出かけて観覧車や水上バスにも挑戦してみたいです。



滝 憲子さん
東京都江東区 (3頭目)
ネーラ (♀) LR
①2021.3.8 ~ 3.31
②大川 泰さん

仙台訓練センター



梅澤 愛子さん
青森県三戸郡
(2頭目)
アルタ (♂) GR
①2021.3.22 ~ 4.2
②大内 崇さん

アルタとの歩行は、まだ始まったばかりなのにもう1年たったかのように息ぴったり！今ではバス停や郵便ポストや自販機など、近くまで来ると「ぼくを頼ってね」と自信ありげに教えてくれます。家の中ではお気に入りのおもちゃのコングをくわえて、「見てみて」と体をすりすり！抱っこしたときの仕草もかわいく、私にとって唯一無二の存在です。甘え上手のアルタと一緒に、いつかディズニーランドやハワイへ旅行したいと思います。



加藤 千恵子さん
新潟市(3頭目)
サリー (♀) LR
①2021.4.14 ~ 4.27
②北原 晃一郎さん

2頭目の引退を早めに決め、じっくり3頭目のパートナーを待ちました。おかげで前の子と良く似た、かわいい女の子が来てくれました。歩く速度もちょうど良く、相性もぴったりです。サリーは長い尻尾を振っていっぱい喜びを示してくれます。夫にもすぐ懐き、夫は遊んでくれる人、私はご飯や排泄などの世話をしてくれる人と思っているようです。夫婦仲良く子育て？孫育て？をしながら、楽しい会話が弾みます。



大人しくのんびり屋のリスは、かまってほしいときの仕草も小さく可憐です。私の顔をじっと見つめ、顔を寄せるとペロッとなめます。片足をちょっと上げたりもします。膝にお尻を乗せるのも好きで、孫が大きくなった今、抱っこは懐かしく久しぶりの感覚です。共同訓練では職場やよく行くスポーツセンターまでの道を歩きました。コロナでセンターは閉館していますが、再開したら卓球仲間とリスをお披露目したいです。

島根あさひ訓練センター

池前 巳代子さん 福岡県北九州市(3頭目)
リス (♀) LR
①2021.5.17 ~ 5.29 ②久保田 純子さん



GOAL

7月23日
東京2020
オリンピック
開催

→直前に地元の小学生から応援のメッセージをたくさんもらいました。その思いを背負ってイクションと楽しく走れました

東京2020 オリジピック 聖火ランナーに 協会ユーザー4人が選出!

それぞれの思いを胸に全国から託されてきたトーチを持って次へつなぎます

- ① 走行日
- ② 走行場所

START
3月25日
福島県



→「グッドと言えばヴォイスは落ち着く」前日の訓練士のアドバイスのおかげで走り切ることができました

岩谷 久美子さん & ヴォイス

①5月15日
②島根県邑南町
矢上団地入口～
邑南町役場

島根あさひ訓練センターの第1号盲導犬ユーザーとして10年以上も盲導犬の普及活動をしている岩谷さん。全国をまわって盲導犬の受け入れ依頼をしています。一方、地元で経営する治療院には近所の子供たちがよく遊びにきます。ヴォイスとも仲良しです。一人で白杖で歩くとき近所の方から「なんでヴォイスがないの？一緒にいるほうが安心」と言われたことも。町長も気さくに声をかけてくれて、ヴォイスも町長が大好き。道で見かけると大きく尻尾を振って挨拶します。今回、町を代表して聖火リレーのアンカーを務める岩谷さん。町のみなさんへの感謝を胸にヴォイスと一緒に走ります。盲導犬のことを多くの人に知ってもらえたらと語ります。

藤山 美枝子さん & ハッピー

①6月20日
②宮城県利府町
宮城県
総合運動公園内



10年ほど前に大病を患った際、毎日病院へきてくれた夫。もし夫が入院したらと考えると、一人でも歩けるよう白杖や盲導犬に挑戦しました。当初は気が進まず、盲導犬の体験歩行会は夫が付き添って来てようやく参加、共同訓練も同じで、前日になってもスーツケースは空っぽのままでした。そんな始まりでしたが、ハッピーと一緒にできることが少しずつ増え、「何ごとにも挑戦してみよう」と聖火リレーにも。いつも隣にいた夫が今では「いってらっしゃい」と見送ってくれる立場に。「わがママを聞いてくれた夫への恩返しのお気持ちで走ります」と意気込みます。

→みなさんの思いを胸に気持ちよく走ることができました。あっという間の200mでした



若山 崇さん & トラヴィス

①6月19日
②宮城県石巻市
石巻市
総合運動公園内

目を悪くしてから気持ちがふさぎ、白杖で歩く姿も人に見られなくなかったという若山さん。でもトラヴィスと出会って人生が変わりました。できないと思っていたことができるようになり、自信がついて「自分をさらけ出そう」と思えるようになり、「聖火ランナーとしてトラと一緒に走りたい」と。妻が伴走者となり、家族3人で思い出に残る経験をと応募しました。地元の石巻は東日本大震災の被害が大きかった地域で、視覚障害者の仲間には未だに復興住宅に住む人もいます。「彼らの思いも寄せ、石巻の町を走って復興を確かめたい。筋力して身体を絞って、人生の記念日となる当日を迎えたいです」。

心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介します

香川・岡山で17年続くテレビ番組 「with盲導犬」 ～ KSB瀬戸内海放送の取り組み

● 協会の歴史とともに

香川県と岡山県をエリアとするテレビ朝日系列局 KSB瀬戸内海放送(以下、KSB)では、毎週日曜日の夕方5時25分～5時30分、盲導犬とユーザー、訓練士、ボランティアなどを紹介するドキュメンタリー番組「with盲導犬」を放送しています。富士ハーネスの開設や訓練士学校の取り組みをいち早く取り上げるなど協会と共に歩み続け、17年目を迎えました。

番組の熱心なファンの方から協会へ「毎週見ている」「パピーがかわかった」「どうすればボランティアになれるのか」と尋ねられることも少なくありません。両県からボランティアの申し込みも届いています。長年にわたる「with盲導犬」放送のおかげです。

KSBは2003年に盲導犬の育成支援を決め、番組を通して理解の輪を広げることになりました。番組制作にはスポンサーが必要です。東京をはじめ各地の企業へ足を運び、視覚

障害者の社会参加への協力を呼びかけました。すると、今までテレビCMにはあまり興味を示していなかった地元企業が賛同してくれたのです。番組制作会社にも協力を得るために、趣旨や盲導犬の理解促進活動の重要性を説明しました。制作会社もその思いに共鳴し、2005年、番組放送がスタートしました。

● さらなる理解促進に向けて

放送開始から17年、番組の歴史をつなぐのは営業担当若手の湯浅英幸さんです。「入社前から観ていた大好きな番組に関わることができてうれしい」と笑顔で話します。

同社は、放送だけでなく目の前で実際に盲導犬を見てもらうことも大切だと、「高松冬のまつり(2016年終

了)」では盲導犬デモンストラクションや募金活動に協力、ほか香川県プロゴルフ会へのチャリティイベント誘致など、協会活動を積極的に後押ししてくれています。スポンサーの理解促進にも引き続き



↑入社6年目、営業担当の湯浅英幸さん(左)。番組立ち上げに関わった竹田省二さん(右)と一緒に。高松本社ロビーでは大型募金箱がお出迎えます

力を入れたいと、毎年、協会と共に番組協賛企業を訪問。訪問先では社長が自ら温かく歓迎、社員のみなさんも協会の説明に熱心に耳を傾けるなど、理解の輪が確実に広がっています。

● バトンは次の世代へ

番組を観て育った湯浅さんは、映像を届けている放送局が、視覚に障害のある方のサポート事業に携わっていることに大きな意義を感じると言います。「今後はさらに番組内容を充実させたいですし、宮城県や静岡県、広島県など協会施設のある地域で、各地元企業や系列局に理解の輪を広げていきたいです」。湯浅さんは歴史ある番組をさらに進化させようと動き始めています。こうした思いを追い風に、協会もこれから一層、目の見えない、見えにくい人の社会参加を実現していきます。

with 盲導犬 KSB瀬戸内海放送 盲導犬育成事業支援番組の変遷

私のベターハーフ 盲導犬	2005年5月～2006年4月
絆・盲導犬訓練士	2006年5月～2007年4月
いっしょに歩こう 盲導犬ボランティア	2007年5月～2008年4月
ボクの成長日記	2008年6月～2009年5月
本日も、盲導犬日和	2009年6月～2011年5月
ワン more Challenge	2011年6月～2012年5月
盲導犬 どこでもウエルカム	2012年6月～2013年5月
with 盲導犬	2013年6月～現在放送中

生まれました

2021.3.11 誕生

オス3頭
メス1頭
父犬ワオン(LR)×
母犬シェリー(LR)



2021.5.11 誕生

オス1頭
メス4頭
父犬カーロ(LR)×
母犬エミール(LR)



2021.6.3 誕生

オス6頭
メス1頭
父犬ユオン(LR)×
母犬キアラ(LR)



2021.3.26 誕生

オス3頭
メス3頭
父犬ジョンソン(LR)×
母犬モモ(LR)



※凍結精液を使用しての人工授精

みなさんに
支えられて

3月11日～6月10日

犬種記号
LR/ラブラドル・レトリバー
GR/ゴールデン・レトリバー

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ノーベル♂	宮口 覚さん	中島 雅美さん	2021.4.5
レーヌ♀	加藤 千恵子さん	森本 年郎さん	2021.4.14
クルー♂	本橋 利謙さん	小林 克夫さん	2021.4.29
ナイル♂	池前 巳代子さん	西谷 健伸さん	2021.5.17
バズ♂	宮田 豊さん、宮田 正子さん	調整中	2021.5.26

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
セント♂	石川 善清さん	宮下 綾子さん、川上 容雅子さん	2021.3.14
ロビン♂	繁殖引退犬	鈴木 登さん	2021.3.15
イオ♀	林 道夫さん	小谷 有希さん	2021.3.15
オーロラ♀	土屋 直樹さん	藤川 鈴子さん	2021.4.10
ポータ♀	落合 真智子さん	星 恭子さん	2021.4.13
ブライヤー♂	繁殖引退犬	瀧野 香央里さん	2021.4.15
ミル♀	繁殖引退犬	前田 陽司さん	2021.4.27
ジェミー♀	繁殖引退犬	吉永 佳代子さん	2021.4.28
コア♂	繁殖引退犬	青木 ジョエンさん	2021.5.14
ナージャ♀	石崎 慎治さん	山崎 顕さん	2021.5.18
ウェイビー♀	外山 恭子さん	前田 一彦さん	2021.5.25
タナー♂	繁殖引退犬	杉浦 順子さん	2021.6.7

盲導犬育成状況

合計頭数・679頭(2021年6月24日現在)

委託前パピー	10頭	繁殖犬	50頭
パピー	39頭	PR犬	22頭
訓練犬	76頭	引退犬	167頭
盲導犬	260頭	繁殖引退犬	55頭

委託しました

父犬カーロ(LR) × 母犬ヴァトン(LR)	父犬ワオン(LR) × 母犬シェリー(LR)
セサミ♂ 津曲 進次郎さん	ユニゾン♂ 植松 澄夫さん
シンバ♂ 久保 晴彦さん	ウルト♂ 佐藤 祐子さん
スラン♀ 大城 惟克さん	ユニバー♂ 石川 洋輔さん
サーター♂ 安部井 学樹さん	ウタ♀ 竹内 利春さん
スパル♂ 有田 洋右さん	
父犬カーロ(LR) × 母犬イリマ(LR)	父犬ジョンソン(LR) × 母犬モモ(LR)
テオ♂ 平賀 伸彦さん	ヴェロア♀ 木崎 久美さん
タノ♀ 栗田 哲さん	ヴァリー♀ 小野口 享さん
トライ♂ 寺口 和幸さん	ヴェスタ♀ 原 信介さん
トーマ♂ 高橋 正美さん	ヴェネル♂ 大星 勇介さん
テス♀ 吉田 悠貴恵さん	ヴェンガ♂ 若井 勝廣さん
トミー♂ 金安 正記さん	ヴィム♂ 関根 則夫さん



株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
http://www.intage.co.jp/

キューモニター募集
https://www.cue-monitor.jp/

みなさんからいただいた「声」を紹介する

ハーネスひろば



協会のご支援者や
ボランティアの方から
届いたメッセージを紹介します

我が家でもミニチュアダックスを飼っています。昨年、13年間一緒に暮らした犬が亡くなり、寂しくなり、間もなくしてまた同犬種の犬を飼い始めました。現在、コロナ禍でいろいろと気落ちすることもあります。犬は言葉を話しませんが、人の感情を理解し、寄り添い、よきパートナーとして、人と暮らしていけることを学びました。日本でも、たくさんの盲導犬が活躍できることを願っています。機会がありましたら、いつか訓練施設にも見学へ行けたらと思っております。みなさんもお身体を大事にしてください！

千葉県佐倉市 キクチ レイコさんより

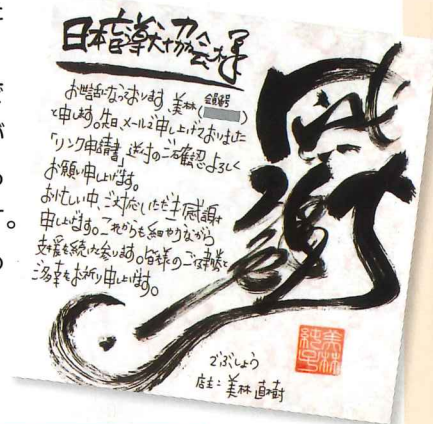
盲導犬が、飲食店で入店拒否されたニュースを聞くたびに胸が痛くなります。必要なのは、やはり啓発活動なのかなと思いつつながら102号の会報誌をめくっていたら、最後のページ「ハーネスひろば」に「オンラインセミナーを月に1回定期的に開催予定」とあり、うれしくなりました。盲導犬ユーザーが、堂々と楽しく外食できる機会がどんどん増えるといいですね。埼玉県川口市 入江 令子さんより

いつも「盲導犬くらぶ」を楽しく拝見しています。私が知らないこと、気づかないこと、さまざまな視点から情報をいただき、どの記事も興味深いです。102号「コロナ禍の盲導犬ユーザー」小暮さんの作品に胸を打たれました。毎日自分のことでいっぱい、つい忘れてしまいがちな大切なことに気づかせていただきました。私も、Have warm heartで過ごしたいと思います。すてきな作品をご紹介くださってありがとうございました。これからも楽しみに、毎号読ませていただきます。

大阪市 KYさんより

盲導犬支援のきっかけは、単純に犬が大好きだから…せっかくなら、犬にも人にも社会にも良いこと（三方よし）がしたいと考えて、盲導犬支援を思いつきました。盲導犬の育成から引退後の余生までちゃんと一貫して行っているところが決め手となり、日本盲導犬協会への支援に至った次第です。私たちは日々誰かに支えられ助けられ、たくさんの恩恵を受けています。本当に有り難いのひと言です。その恩を還元したいと思い、微力ながら盲導犬支援を続けています。日本盲導犬協会様のおかげで素晴らしい機会を得ることができました。心より感謝申し上げます。住んでいる所が小さな田舎町なので実際に盲導犬やユーザーさんにお会いしたことはありませんが、支援することで一人でも多くの人や盲導犬が幸せになってくれたらなあと思うばかりです。一滴の雫が大河になることを信じて…感謝。

福岡県嘉麻市
美林 直樹さんより



編集室より

●「盲導犬くらぶ」の感想やご意見、盲導犬との出会いやエピソードなどを盲導犬くらぶ編集室までぜひお寄せください。1通1通のお便りが私たちの大きな励みとなります。

●あて先

公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
e-mail: info@moudouken.net

一般社団法人日本自動車販売協会連合会
JAPAN AUTOMOBILE DEALERS ASSOCIATION

自販連では、公益信託自販連盲導犬育成基金を設立し、全国の目の不自由な方々に、盲導犬貸与の助成事業を行っております。



〒105-8530 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館15階
TEL: 03-5733-3105

わかさ生活。 マンガで分かる 盲導犬の一生

盲導犬ヘリ

全3巻

盲導犬ヘリ 検索

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています。